

## 平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

### 1 めざす学校像

<p>◆知的障がいのある生徒が就労を通じた潤いのある社会的自立をめざすチャレンジを支援する学校</p> <p>◆生徒の個別の特性・適性を正確に把握し、より適切で有効な支援をするために進化する学校</p> <p>☆<b>社会的責任</b>（存在価値） 全ての障がいのある生徒のチャレンジを支援するため、本校の実践と成果を広く社会に発信し、理解と啓発に努める。</p> <p>☆<b>マーケティング</b>（顧客志向） 生徒・保護者のニーズ、企業のニーズを的確に把握し、適切で効果的なマッチングを行う。</p> <p>☆<b>イノベーション</b>（継続的な改善・改革） 企業の求めるニーズ（人材）に応えるため、迅速かつ効率的に結果を出せる組織体制を構築する。</p>
--

### 2 中期的目標

<p>1 教育活動の外部への発信と積極的な関係機関との連携</p> <p>(1)地域と本校の協同によるコミュニティ「たまがわランド」を本格的に運営し、地域に愛され、育てられる学校をめざす。</p> <p>(2)職業学科を設置する高等支援4校（平成28年度からは5校）間の連携を進めるとともに、共生推進教室が2校となるまでのスムーズな移行を行う。</p> <p>(3)本校の取り組みを積極的に外部に発信し、社会全体に障がいのある生徒のチャレンジを支援するよう働きかける。</p> <p>2 より適切で効果的なマッチングを基本とした進路指導体制の充実</p> <p>(1)制度の変化や時代の変化を敏感にとらえ、企業のニーズに応える人材を育成し、より適切で効果的なマッチングにより就労率80%以上をめざす。</p> <p>(2)生徒と企業の双方のニーズをマッチさせることにより、定着率を上げるとともに、実習先・雇用先の新規開拓につなげる。</p> <p>(3)自立活動の時間を充実させ、適切な支援により生徒一人ひとりの課題を引き出し、社会的自立に必要な力を養う体制を構築する。</p> <p>(4)社会生活において必要な知識を身につけるとともに、様々なことに興味や関心を持ち自主的に学ぶ力を育成する。</p> <p>3 今後の社会の変化に適切・迅速に対応できる、進取の機運に富んだ校内体制の確立</p> <p>(1)改編整備した校務分掌組織の定着と、引き続き業務のスリム化を図り、効率的で機動力のある集団をめざす。</p> <p>(2)進化を推進することができる人材の育成を図るため、委員会・プロジェクト等に若手・中堅教員を充て、学校経営への参画意識を高める。</p> <p>(3)統合ICTの更なる活用により、業務の効率化を図る。</p>
---

#### 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>生徒・保護者・教職員を対象に実施した。今年度から生徒は学校で実施することとした。</p> <p>【学習活動等】</p> <p>○授業関連の質問については、生徒・保護者ともに肯定的な回答が非常に多い。教職員の「学習形態を工夫・改善について話し合う機会を多く持っている」が84%と地道な努力が結果につながっていると考えられる。</p> <p>○「個別の教育支援計画・個別の指導計画の活用」については、保護者の95%以上が「よくあてはまる」「ややあてはまる」となっている。「懇談・連絡帳等で学校の様子が見える」が90%超が肯定的な意見ということも併せ、担任と保護者と連絡は概ね良好な関係にあると感じる。懇談の時間も十分確保し、ご意見をいただくよう努めている。</p> <p>○進路指導について、「進路について考える授業がある」（生徒）は97%、「進路や職業について適切な指導」（保護者）は99%が肯定的で、本校の教育目標である就労指導について一定の評価いただいている。学校で進路支援部中心に生徒の資質・特性を踏まえたキャリア教育を進めている成果と考える。</p> <p>○「学校行事は楽しい」は生徒・保護者ともに99%と、たまがわフェスティバル・パックスツアー等バラエティに富んでいることが評価いただいていると考える。</p> <p>【情報の収集と発信】</p> <p>○「保護者と地域から意見を聞く機会」（保護者）について、否定的な回答が12%あり、学校協議会にPTA代表で会長に委員をお願いしていることやご意見を受け付けていることの周知ができていないことが原因の一つと考えられる。</p> <p>○「学校のホームページを見る」は、肯定的な回答は生徒が39%、保護者は64%であり、保護者については昨年度比10%増が目標であったが、4%の微増であった。ホームページについては次年度リニューアルする予定で部活動等の内容を刷新し、生徒が興味を持つ内容も増やしていくつもりである。</p> <p>【学校運営】</p> <p>○「学校運営における校長のリーダーシップ」については、保護者の93%が肯定的なのに対し、教職員は74%とやや開きがある。運営方針とその必然性について、教職員への周知が不足していることが原因であると考えられる。広く意見を吸い上げ、全教職員に運営参画意識を持たせるよう努力する必要がある。</p>	<p>第1回（5/25開催）</p> <p>【情報発信】もう少ししっかりすべきである。学校訪問の回数は低い目標、もう少し積極的に受け入れるべきである。なにわ高等支援学校とは将来的に校区がかぶるかもしれない。互いに切磋琢磨するよう頑張してほしい。</p> <p>【自立活動の充実】45分授業になったところをしっかりと検証しないといけない。自立活動の効果がないとなれば白紙に戻すことも含め考えるべきである。もう少し目に見える形で、こういう成果が上がった、だから続けていこうというように判断すべきである。</p> <p>【たまがわランド】取り組みを強く進めてほしい。地域との連携は大変よいことで、生徒たちが多くの人と接することによって、よりコミュニケーション力が身につく、就労の力がついてくる。是非来年度の本格オープンに成功させてほしい。</p> <p>【就労支援】卒業時の就労率については素晴らしい数字を出しているが、離職している生徒も少なからずいる。定着支援をどう取り組んでいくかが課題である。マッチングを一層丁寧にするべきで、長く働き続ける力を身につけるべきである。</p> <p>第2回（11/16開催）</p> <p>【10周年関連行事】記念講演会・記念式典ともに非常に良かった。特に式典は生徒たちの元気に学校生活を送っていることが良くわかり、来賓の方からも称賛の声が上がっていた。これからの10年の教育活動を考えるいい機会になったと思う。</p> <p>【たまがわランド】取り組みの進捗状況は順調に思える。農地借用については協力したいがなかなか難しい。いろいろな分野が面白い取り組みを考えているので、生徒たちの励みになるのではないかと。分野・学科単位の参加というのも大切だが、より多くの生徒が携わることが大切。一部の生徒だけが頑張っているというのではよろしくない。ゆるキャラも生徒たちのアンケートで制作するなど取り組みが加速している。</p> <p>【就労支援】離職する卒業生はどこかでSOSを出している。それを企業さんがどう対応してくれるか、あるいは学校がどのように啓蒙していくかも考えるべきである。</p> <p>【生活指導】いじめ等の案件で保護者集会を開いたのは評価できる。今後も問題があれば迅速に対応することが必要である。</p> <p>第3回（3/16開催）</p> <p>【学校評価】自立活動は6領域のどれに当てはまるのかをしっかりと考慮し、計画的に行うものである。自己診断アンケートでは概ね肯定的な回答が多い。本校の取り組みのノウハウを他の高等支援学校に広めていくことが必要である。</p> <p>【たまがわランド】プレ・オープンは概ね好評であった。ハンドケアサービスや一汁三菜定食の取組みは素晴らしい。後は事前の広報をしっかりと考えることが大切である。</p> <p>【就労支援】長く働き続けるために、卒業生に対応した件数21人の状況を分析し、自立活動やたまがわランドの取り組みとどう連動させるかのアセスメントを考える必要がある。会社側の障がい者雇用の意識は高まっている。後は本人が力をつけ、困ったときに早めに</p>

## 府立たまがわ高等支援学校

相談することができる力を育成することが大切である。

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 教育活動の外部への発信と関係機関との連携	<p>(1) たまがわランドを本格的に運営 ア、試行計画の作成 イ、年間運営計画検討</p> <p>(2) 高等支援4校間（次年度から5校）の連携と共生推進教室のスムーズな移行 ア、行事予定・年間授業計画・入学者選抜の徹底した情報共有 イ、金剛高等学校共生推進教室立ち上げの支援 (3) 本校の取り組みを外部に発信 ア、外部機関との連携と教育活動の外部への発信 イ、見学・視察等の受入れ</p>	<p>(1) ア、取組みの先行している分野から外部に対して試験的に実施する。 イ、各分野が実際に可能な時期・回数等を協議し、次年度の最終運営計画を決定する。</p> <p>(2) ア、校長会の中で高等支援部会を立ち上げ、校長部会・生徒指導部会等を通して情報共有を密にし、4校間の連携を図る。また、学校行事・部活動等の交流を進める。 イ、各校の共生担当者と本校地域支援部の連携をより一層深め、新たに加わる金剛高等学校と連携し、共生推進教室の立ち上げに全力を挙げて取り組む。</p> <p>(3) ア、中小企業家同友会・ロータリークラブ等に積極的に出向き、生徒の就労先の開拓につなげる。ホームページを充実させ、取組みをタイムリーに外部に発信する。併せて校長ブログも毎週1回更新する。 イ、外部から「共生推進教室」についての問合せが増加していることから、積極的に大阪府の先進的な取組みとして発信する。</p>	<p>(1) ア、各分野が1回以上は物品販売等の企画を実施する。 イ、年間計画を完成し、HPや学校便り等で地域に発信する。</p> <p>(2) ア、年間3回校長部会を開催し、情報交換を密にする。 イ、式典・体育祭・文化祭等の学校行事の日程を共有し共生推進教室生の教育活動がスムーズに行われるように努める。</p> <p>(3) ア、定例会に年間5回以上出席し、本校の取組みを発信する。 ア、学校評価アンケートの「保護者が本校HPを見る」割合を10%上げる。 イ、年間15回以上の受入れをめざす。 本校保護者にも共生推進教室の発信をする。</p>	<p>(1) ア、2回のプレ・オープンを実施した。園芸分野の野菜販売を始め、喫茶サービス・清掃等で地域に取組みを発信した。チラシ作製はオフィス分野が、バックヤードはうどんや定食の提供、福祉施設での出張ハンドケア、自家製パンの販売食品生産等各分野が新たな取組みを行った。(◎)</p> <p>イ、計画の概要はできていて、新年度に確定後、学校便り・ブログ等で発信する予定である。(△)</p> <p>(2) ア、大阪市立なにわ高等支援も含め5校体制で連携し、教務主事会や養護教諭会の開催、地域支援整備事業等をリーディングスタッフが担い、本校のノウハウを積極的に発信した。また次年度学校見学会等の日程調整を行った。(○)</p> <p>イ、本校リーディングスタッフを金剛高校へ数回派遣し、情報共有に努めた。(○)</p> <p>(3) ア、G.C.C、中小企業家同友会に2回ずつ出席したが、実習先をいただいた等の成果が表れなかった。(△) ア、HP閲覧への肯定意見は4%増に留まった。(△) イ、札幌市・八尾市・吹田市・岐阜県等から視察、西浦支援学校生徒交流、3校高等職業訓練校見学、コーディネーター養成研修協力等積極的に発信した。(○) ウ、10周年記念関連事業で積極的に外部に発信。 ・自立支援共生推進実践発表会に出席し、500人の参加者を前に、担当者が本校の取組みと高等支援学校、共生推進教室の概要を発表した。(◎)</p>
2 より適切で効果的な進路指導体制の充実	<p>(1) 定着率の向上、実習先の新規開拓 ア、卒業後の就労定着率を上げる。 イ、就労先の開拓を引き続き進める。</p> <p>(2) 自立活動の充実 ア、45分授業の導入により変更した校時の定着 イ、自立活動の効果の検証 ウ、部活動・生徒会活動等の充実 (3) 自ら学ぶ力の育成</p>	<p>(1) ア、分掌の再編整備により進路指導部が増員となるので、卒業後のアフターフォローの体制を整備する。 イ、引き続き、生徒全員が職場実習をお願いできる企業の確保に努める。</p> <p>(2) ア、自立活動の時間を朝礼・終礼時に十分確保できたことにより、担任が丁寧な生徒支援ができるよう校内体制を整備する。 イ、自立活動内容の共有化を図り、各学年で取組みについて一定の方針を策定する。 ウ、自立活動の要素を多く含むことから、より一層加入率を高め、活動内容の充実を図る。</p> <p>(3) ア、ipad等の機器を利用した新たな授業を試行し、学年単位での活動の中で自己の意見や考えを述べる力をつけると共に、グループで協同してプレゼンテーションを行う。</p>	<p>(1) ア、より一層丁寧なアフターフォローを心がける。 イ、中小企業家同友会や、関係諸機関と連携し、実習・雇用先の新規開拓を進める。</p> <p>(2) ア、学校評価アンケートの「先生に相談できる」の項目を5%上げる。 イ、年度末総括において、各学年で自立活動の充実の成果について検証する。その成果として「オールブラックス賞」（皆勤賞）生徒数を10%増やす ウ、生徒の部活動加入率80%を達成する。</p> <p>(3)ア、例として企業対象の学校見学会等で生徒がプレゼンテーションを行う。</p>	<p>ア、障害者就業・生活支援センターと連携し、情報共有と支援をした。(○)</p> <p>イ、ロータリークラブの代表の方に生徒の授業を見学いただいた。新規開拓については17社であった。(○)</p> <p>(2) ア、昨年度75%→83%に増加。物理的に教員と生徒が会話できる時間が増えている。(○)</p> <p>イ、校内研修で先進的な取組み教員の事例発表し、データベース化して共有、全校的な取組みとして継続中であり、次年度も一層の充実を図る。オールブラックス賞については昨年度と変化はなかった。(△)</p> <p>ウ、運動系を中心に80%を達成している。更に次年度は文化部を充実させたい。成績としては陸上2人、サッカー4人（大阪選抜）が国体へ出場した。(◎)</p> <p>(3) ア、職業科の授業を見学していただく際に、生徒が授業内容を説明することができた。次年度のたまがわランドでは是非積極的に生徒が企業対象に説明する機会を作りたい。(○)</p>

## 府立たまがわ高等支援学校

<p>3 進取の機運に富んだ校内体制の確立</p>	<p>(1) 改編整備した校務分掌組織の定着 ア、全ての部のスムーズな運営 イ、会議の回数と時間の削減・短縮  (2) 若手・中堅教員の責任職への登用  (3) 統合ICTの更なる活用</p>	<p>(1) ア、「総務企画部」の上位分掌としての位置づけの確認を1年かけて行う。また、5分掌全てに引き続き業務内容を精査し、整理統合縮小を図り、機動力に富んだ校務分掌体制を構築する。 イ、毎日実施する職員朝礼を有効に使い、職員会議等の内容も精査して時間短縮に努め、他の業務や教材研究の時間を確保する。  (2) 昨年度に引き続きプロジェクト等の活動を加速する。中堅・若手教員の斬新な発想を支援し、校務遂行能力を育てる。  (3) 職員室のLAN環境の整備を進め、職員室でのパソコン使用頻度を上げる。また、連絡等はICTの掲示板、メールを極力使い、効率的な業務遂行体制を構築する。</p>	<p>(1) ア、年度末に各部署で総括を行い、業務の均等化を図り、適切な体制と分掌人員配置を確立する。 イ、勤務時間内に職員会議等の全体会議を終える。  (2) 会議室を多目的教室化し、生徒のプレゼンテーション能力の向上を図る。  (3) 教職員がICT機器のスキルを向上させ、ペーパーレスに努める。</p>	<p>(1) ア、教務と研究調査が合併した学習支援部については仕事の内容を精査し、順調である。生徒支援と保健が合併した生活支援部はまだ整理が進んでいない。全体での業務分担を引き続き見直す必要がある。(△) イ、全体的に会議時間は短縮し、その時間を生徒対応報共有に当てることができた。(○)  (2) イノベーション委員会が10周年記念を担当し成果をあげた。その下に属する学校パンフレットを作成するプロジェクトでも若手人材が活躍した。(◎)  (3) 校長からの連絡、府教委からの通知は極力メール等、ペーパーレスで行った。教員もICT機器を利用する意識は向上しつつある。(○)</p>
-------------------------------	--	--	--	---